

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 3 回相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会		
事務局 (担当課)		文化財保護課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 3 7 1 (直通)		
開催日時		令和 6 年 7 月 2 3 日 (火) 1 6 時 0 0 分から 1 8 時 0 0 分まで		
開催場所		相模原市役所本庁舎第 2 別館 3 階 第 3 委員会室		
出席者	委員	1 6 人 (別紙のとおり)		
	その他	2 人 (コンサルタント)		
	事務局	5 人 (生涯学習部長、文化財保護課長、他 3 人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 あいさつ 2 議 題 (1) 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について ア 序章～第 3 章の前回からの修正状況について イ 課題－方針－措置の全体概要について ウ 第 7 章 (防災・防犯)、第 8 章 (推進体制) の本文案について (2) その他		

## 議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。(○委員発言 ●事務局発言)

### 1 あいさつ

文化財保護課長、会長より挨拶を行った。

### 2 議 題

- (1) 相模原市文化財保存活用地域計画の本文について  
事務局から資料に基づき説明を行った。

#### ◆以下、質問及び意見

- (1) 相模原市文化財活用地域計画の本文について  
ア 序章～第3章の前回からの修正状況について

○序-6 ページ相模原市総合計画の図が古く、実際には実施計画は推進プランに代えている。書き方を工夫した方がよい。

●現在の総合計画が令和 10 年度以降次期計画に移行する予定になっており、それに伴い今後調整が必要になる。図は書き方等を再検討させていただく。

○1-14 ページの観光のところは最新の数字を提供させていただきたい。

○1-21 ページの現代のところ畑地灌漑が入ってて非常に良いと思うが、開拓団も入れてもらったかどうか。

○1-7 ページの動植物で、オオサンショウウオは、現在飼育下にあるものしかないので、挙げるのはどうかと思う。

○1-9 ページで昭和 16 年の合併の時に初めて相模原町が出てきた、相模原という行政のその区画の名前が出てきたという理解でよいか。

●はい。

○相模原という名前を選択された経緯は分かるか。

●軍との関係、県との関係がある。

○1-10 ページ真ん中の旧城山町の東側の向原の上、原宿南下が空白になっている。

●大字としては川尻が今残っていて、表記漏れがある。

○このあたりは大字の範囲が狭いが、何か理由があるのか。

●かつては川尻村で左側と横並びにするのであれば川尻でよいが、今の人になかなか伝わりにくいというところで、現在の少し細かい字名を入れた。

○柳田國男のところにも「氏」をつけた方がよい。

●入れさせていただく。

○相模原の名称の採用の由来というか、その一文が1-8 ページに反映できれば入れていただきたい。

○史前学研究所というのは大山史前学研究所になる。

●了解した。

○通常自然系の学史の記述では「氏」は入れない。

○第3章は表が多いが、間延びしている感じがあるのでレイアウトを工夫したほうが良い。

○表の3の一覧表はとても字も細く、行間を詰めてページ数を減らしてもよい。

有形文化財の所在地を番地まで書くということは、県の方ではしていない。特にお宝的なものの所在地はぼかした方がよい。

●他の計画を参考に再検討させていただく。

○相模原の史跡は、県内の縄文時代史跡指定第1号の寸沢嵐石器時代遺跡や川尻石器時代遺跡など、史跡の名称そのものがその由来を示すようなものであるとともに地域住民の方々によって非常に在地的な整備がされている。

そういう地域の方々の思いというものを多少強調して記述をしていただければと思う。

○大正8年に史跡名勝天然記念物保存法という法律ができてかなり早い段階で指定されているということと、歴史的な、学問的にも非常に重要な地域である。

そうしたことを含め、今のご意見なども反映いただくと詰められる気がする。

○3-27 ページ4行目の「やつぼ」が第1章だとカタカナになっていて、これは使い分けをしているのか。意味を持たせているのか。

●前回から変えている。

○この図の3-20 というのは第2節の相模原市の歴史文化の特性というのを図化したものと理解できるが、今度の図はその対応がわかりにくく、要検討だと思う。

●「やつぼ」については基本的にカタカナ表記にさせていただく。また3-27 ページの方はカタカナに修正をさせていただく。

それと、概念図については修正の方で検討させていただく。

## イ 課題-方針-措置の全体概要について

○小原宿活性化推進会議です。確か相模原市と合併した時に小原宿本陣は全解体全復をするという話があったがそれが頓挫してしまった。その後市へ要望書を出したりしたが、我々の今までの思いもあるのでお願いしたいと思う。

○小原宿本陣は県指定の建造物ということで修理等は県の文化遺産課が関わってくる。金銭の負担を伴う部分もあるので事前に十分なお相談と、いわゆる調査設計のようなものをしていただいて、しっかりとした修理計画を立てていただければ

ばと思う。

○田名向原遺跡でボランティアガイドをしているが、市外の大学の学生がかなり来る。市内の若者にもっと関心を持たせるような方針をこの中に入れていただきたい。

○この資料の指摘内容のところにも、副読本として使えるようなものにしてはどうかという意見もあったので、そういう仕組みが必要ではないか。

○中村家住宅について、復元というものを、視野に入れていただきたいと思っています。

○2ページの16のところでは風化している石材ということが書いてある。無量光寺の宝篋印塔も写真にも出ていたが、相当ボロボロになってきて、どんどん崩れている。早めにとどうしたらいいか教えていただけるような体制を作っていただけるとありがたい。

一番後ろの方の文化財の修復について、修復をしたい時にどういうところに頼んでいいかわからないお寺さんも多いと思う。

また、調査にあたり取り扱いが非常に雑な人が中にはいるので、その育成の段階でどう教育するか、その文化財に対する十分な敬意を持って調査していただくということが重要である。特に宗教的な文化財に関しては、信仰心に関わってくるので十分な配慮ができる調査であってほしい。

○調査する側のモラルの問題については、そういった調査というものの依頼を市の教育委員会の方で受け、そしてガイドライン等を示して、きちんとした形で対応させるというような仕組みを検討いただきたい。

○保存管理の16番のところでの石造物などに関し対策のマニュアルが必要だということだが、市内には石垣だとかそういったものもあると思うので、それらに関しても検討していただければと思う。

また、かなりボリューミーな計画になっているので、それに見合うだけの人員の確保は必要ではないか。

○この内容はボリューミーであることに間違いなく、これを本当に絵に書いた餅にしてはいけないので、実際に継続性と実効性がなければ作る意味がなく、実行可能な内容で作り上げていくというのが我々の使命だと思う。

○5ページの36番ですが、この区分は担い手づくりとなってしまうとすごく狭まってしまうので、5番の普及活用に入ってくる印象を持った。重要な文化財のリアルなものを子供たちが体験し感じるということが重要だと思う。広い範囲で学校教育に入れていただきたい。

措置ナンバー52で「探そう未来プロジェクトサポーターズリスト」通称「さがりす」という、学校に出前授業を紹介するリストがある。そこに乗せていくというのが、今すぐにでもできるような取り組みだと思うので情報共有させていただ

く。

○3 ページ目の課題の23番、措置でいう28番、主催もあれば共催もあれば後援もある。こういったものも連携してやっていければと思っている。

4ページの措置でいうと31番、相模原市薪能については今年で35回目になるという伝統的なイベントになっていて、教育委員会と連携して実施できると考えている。

ウ 第7章（防災・防犯）、第8章（推進体制）の本文案について

○7-7 ページの防災対策マニュアルを作成・周知という表について、そもそもマニュアルを作った終わりではなくて、そこから防災対策を講じるのがメインだと思うので、計画期間中はずっと留意しなければいけないことかと思う。次のページのハザードマップはそうなっているかと思うが、やはりマニュアルが目的ではないと思う。また横の実施主体の書き方も議論が必要になる。

横長のA3の表の時は凡例の説明で△が取り組みの理解という説明があったが、実施主体という表現を使う以上は、担い手として何をやるかという話だと思う。「取り組みに理解」という範疇で括ってしまうと、非常にわかりにくい。

7-3 ページに本市に影響を及ぼす地震というのがあるが、出典をしっかりと出した方がよい。

●前期中期後期に分けさせてもらっているが、マニュアルを作ること自体が目的ではなく、ずっと続くというところになる。

それと、この◎だとか○とか、△について、分かりづらいところがある。修正をしていきたいと思う。

○7-4 ページの火災について、出火原因のほとんどは漏電である。古民家にある古い配線のまま、ライトなどをつなげて、どこかで漏電が起こって焦げて火事になるというパターンを、私もあちこちで聞いているので、配線的なところを今一度確認していただきたい。

7-5 ページのギフチョウ関係で「ギフチョウなどでコレクターから捕獲を守るため」というのは、「コレクターによる捕獲から守るため」の方が良いと思う。

○7-4 ページの青根小学校の関係で、木造校舎という言葉も、一言付け足してもらうととても良い。

○7-4 ページの4行目「火災による文化財の消失」は「焼失」の誤り。

●修正する。

(2) その他

次回日程等について事務局から説明を行った。

以上

相模原市文化財保存活用地域計画作成検討協議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備考	出欠席
1	馬場 憲一	法政大学名誉教授		欠席
2	内川 隆志	國學院大學教授	会長	出席
3	大貫 英明	相模原市文化財研究協議会 会長		出席
4	篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会 会長		出席
5	曾根 勝	特定非営利活動法人 建築文化研究会 副理事長		出席
6	飯田 覚隆	宗教法人 無量光寺 代表役員		出席
7	野口 浩史	公益財団法人 神奈川県公園協会		出席
8	小林 幸治	小原宿活性化推進会議 会長		出席
9	石原 朗	公益社団法人 相模原市観光協会 専務理事	副会長	出席
10	永山 一雄	公募市民		出席
11	横山 淑子	公募市民		出席
12	谷口 肇	神奈川県教育委員会文化遺産課調整・世界遺産登録推進グループ 主幹		出席
13	秋山 幸也	相模原市立博物館 総括副主幹（学芸班担当）		出席
14	藤原 啓	相模原市教育委員会学校教育課（指導主事）		出席
15	鈴木 一広	相模原市観光政策課 参事（兼）課長		出席
16	柴田 貴弘	相模原市建築政策課 課長		出席
17	田加井 英希	相模原市文化振興課 課長		出席